

あなたにもできる『グリーン購入』

◆環境課 ☎ 587 - 6003、FAX 587 - 3834

「グリーン購入」とは、商品を購入したり、サービスを利用したりするときに、地球環境のことを考えて、選択することです。

たとえば、車を使わずに徒歩や自転車で買い物に行く、マイバッグを持参してレジ袋を断ることを含め、毎日の生活の中で誰にでも今すぐ始めることができます。

私たち一人ひとりが「グリーン購入」を心がけ、社会にその輪を広げることが、地球温暖化などを防止し、持続可能な社会をつくることにつながります。身近なところから、「グリーン購入」ははじめませんか？

環境シリーズ
はじめなごや
Part 122

■旬の食材を買いましょう

「旬」の食材なら、暖房などによる季節外れのハウス栽培に比べ、余分なエネルギーを使いません。そのうえ、おいしくて栄養も豊富です。

■包装の無いもの、少ないものを選びましょう

家庭ごみの半分以上（容器ベース）が容器包装ごみです。

ごみを減らすために、できるだけ包装の少ないものを選びましょう。

■地場の商品を買きましょう

遠く離れた場所から運ばれる農産物は、輸送の分だけエネルギーを多く使用しています。

地元で採れた野菜や魚なら輸送コストもかからず、すぐに店頭に並ぶから新鮮です。

■省エネ度をチェックして購入しましょう

家電製品の購入なら、迷わず省エネタイプ。購入時は高くても、電気代を考えると断然お得です。

LED 電球や省エネ機器に交換すると、電気代の節約にもつながります。

■再生素材商品を見直しましょう

再生紙や再生プラスチック素材を使った商品が増えています。価格も手ごろで、品質も遜色なし。

再生素材を使った商品の積極的な購入が、資源の有効活用につながります。

■長く使える商品を選びましょう

購入した商品をムダなく長く使うこともグリーン購入です。

例えば、詰め替え式の洗剤やシャンプー、充電式電池など。長く使うほど経済的で、ごみも減らせます。

■移動の際に交通手段を選びましょう

自転車や公共交通機関を活用することで CO₂ を削減することができ、消費者の健康にもつながります。

■環境こだわり農産物を選びましょう

野菜や果物は農薬や化学肥料の使用をできるだけ抑えたものを。大地や水の汚染防止はもとより、生産者や消費者の健康のためにもよい栽培方法です。（環境こだわり農産物：<http://shigaquo.jp/environment/>）



もっと詳しくは ➡

一般社団法人滋賀グリーン購入ネットワーク

<http://shigagpn.gr.jp/>

毎月第4土曜は
廃食油回収の日

平成26年11月22日午前10時～正午

回収会場：市役所別館横電話ボックス付近 回収物：廃食油、牛乳パック、アルミ缶
問環境課 ☎ 587 - 6003、エコロジーマーケットやすの会・増村 ☎ 586 - 1441

歴史の小窓

—学芸員のメッセージ—

歴史民俗博物館

☎587-4410、Fax587-4413

(122)

【11月の休館日】

月曜日（3日・24日は開館）、4日・25日

※市民は入館無料、講演会・講座は当日受付
（事前予約不要）・定員120人

◆秋期企画展「近江の自然災害—地震と水害の歴史—」／11月24日(木)まで

◆企画展記念講演会②／11月3日(祝)午後2～4時「中世の災害と近江」水野章二さん（滋賀県立大学）

◆ドウタクくんの誕生日会／11月1日(土)午後3～4時／先着110人（当日受付）

◆友の会歴史入門講座②／11月13日(木)午後2時～4時「近江のオコナイ—豊穰を祈るまつり—」／講師…中島誠一さん（長浜市曳山博物館館長）※資料代300円

◆まちかど博物館「南桜を歩く」／11月24日(木)午前9時30分～※野蔵グラウンド集合
※詳しくは博物館にお問い合わせください。

琵琶湖洪水と近江

近江の人々に多大なる恵みを与える琵琶湖。しかし、かつては湖の水位が上昇して沿岸に溢れ出す洪水、琵琶湖洪水の発生に人々は苦勞を強いられることもあり、これは、琵琶湖から流れ出る自然河川が瀬田川のみであったことに起因し、一旦大雨になると、上昇した琵琶湖の水位が常水位に戻るのには長時間を要したためです。また、瀬田川の川筋に堆積した土砂が湖の水位を上昇させていました。江戸時代には、これを解消すべく、近江の人々は瀬田川

の川^{かわぞら}浚えに挑んでいます。川浚えの具体的な作業は、川底に堆積した土砂の浚^{しゅん}渫^{せつ}、川流を妨げる葭地や砂地、川中島の除去、新堤や土砂留め杭^{くしからみ}柵の築造、支流河川の川浚え・土砂留めなどです。元禄12（1699）年には、河村瑞賢^{かわむらたみけん}が指導し、平津村（大津市）の葭地や砂地の切り取り、黒津村（大津市）地先の供御^{くご}瀬^せ付近の島の整理・合体などを行っています。しかし、下流域の淀や伏見、摂津・河内の村々は、川浚えによる流水増加によって洪水が

引き起こるとして反対することもあり、幕府に川浚えが認められないこともあり、ついに、近江の人々は、常に琵琶湖洪水の脅威と向き合いつつ、この琵琶湖洪水の状況を伝えるものに、

野洲市吉川の洪水水位石標（市指定文化財）があります。本石標は大正4（1915）年11月に吉川治良左衛門氏が自宅の庭園に設置したもので、現在も吉川治氏邸の庭園に設置されています。石標の柱には、江戸時

代万延元（1860）年夏と慶応4（1868）年5月、そして明治18（1885）年7月、同29（1896）年9月に起こった洪水の水位が記録されており、過去の洪水水位を知ろうえでは大変貴重なものです。なかでも明治29年9月に発生した琵琶湖洪水は、記録に残る最大の洪水とされており、浸水日数は237日に及んでいます。本石標の記録によれば、同年の洪水水位は、当時の琵琶湖測定水位84・371mより3・863m高い、88・234mであったことがわかります。また、この洪水により、滋賀県では死者29人、行方不明者5人、流出家屋1749棟、全壊家屋1251棟、半壊家屋6136棟、破損家屋2万6365棟、浸水家屋（床上・床下）5万8391棟、浸水田約30万反の甚大な



琵琶湖洪水石標（吉川）※見学不可

被害が発生しました。これを機に、瀬田川改修工事が本格化し、洪水防御や琵琶湖の水位維持などを目的とした南郷洗堰^{なんがうせんえん}が明治38（1905）年に設置され、同44年に改良工事が終了しました。11月24日(木)まで開催している秋期企画展「近江の自然災害—地震と水害の歴史—」では、野洲郡各地における明治29年の琵琶湖洪水被害写真や、同洪水による浸水区域を表した滋賀県地図などを展示しています。本展が、琵琶湖洪水と向き合った近江の人々の歴史を知る機会となれば幸いです。ぜひ、ご観覧ください。（博物館学芸員 齊藤慶二）



明治29年琵琶湖洪水 野洲郡北里村江頭（彦根地方気象台撮影・滋賀県立琵琶湖博物館提供）